

# Monthly Report

Vol.55 / 2010 Dec.

## 全国初

### 荒井龍弥教授が公立中学校長に4月から就任 ～ 宮城県教育委員会と連携協定締結～

12月21日(月)、宮城県庁行政庁舎において、宮城県教育委員会（小林伸一教育長）と仙台大学（朴澤泰治学長）は学校教育の振興や教員養成等で協力する連携協定を締結しました。その一環として、荒井龍弥教授が平成23年4月から3年間の任期で公立中学校の校長に就任することになりました。大学教授が公立学校の校長に就任するのは全国でも初めてのことです。



締結式には、宮城県教育委員会の小林伸一教育長、菅原久吉教育次長、高橋仁教育次長他15名が、本学から朴澤泰治学長、渡邊宣隆教授、荒井龍弥教授、藤田努常務他6名がそれぞれ出席致しました。

最初に小林教育長より「この度、新たに大学の知的資源を活用した学校運営の進展を主旨として、学校教育に関する高度な専門知識を有する大学関係者を公立中学校長に採用できることは大変大きな喜びであり、仙台大学の朴澤学長をはじめ、関係する方々に深くお礼申し上げます」との挨拶がありました。

続いて朴澤学長から「教育基本法の改正により、大学が教育や研究のみならず第3の使命として社会貢献も明確に求められる今、公立中学校校長への大学教員任用という全国初の事業に対し荒井教授が登用されたことは、本学にとって大きな社会貢献となる。教育現場とより密接な連携が図れることは、大学教育の効果の検証、教育現場との情報の共有など貴重な機会であり、大学を挙げてバックアップしていきたい」などが話されました。

宮城県教育委員会は2003年から公立学校の校長に民間人を起用しており、これまでも企業出身者3名が公立高校の校長職に登用されています。荒井教授は「教師と生徒が一体となって作り上げる授業はとても大切なものであり、双方がやりがいがあったと思えるような授業づくりのサポートができる校長を目指していきたい。実際に生徒達と接するのが楽しみ」と、意気込みを語っています。桜の花びらが舞う季節、いよいよ校長先生としての第一歩がスタートします。荒井校長先生のご活躍を心より祈念するとともに、中学校という教育現場から生の声をお寄せいただくことを楽しみにお待ちしております。



## 目次

荒井教授が公立中学校長に4月から就任	1
エコプロダクツ2010 低酸素トレーニング	2
スポーツ栄養セミナー 楽天・池田副社長講演	3
おかげさまプロジェクト 県警より高橋さんに感謝状	4
クリスマスパーティー 札幌近郊同窓会	5
コ・アクト宛の御礼状 オリジナルグッズ紹介	6
学生・OBの活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 吉井講師が日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010」に出展



吉井講師を中心とする研究グループが、2010年12月9日(木)～11日(土)に東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010(第12回)」に、研究中の振動床を出展しました。この振動床は、スポーツ活動(運動)を

することで起きる地面や床の振動エネルギーを電気エネルギーに変えて発電させる、新しい試みです。研究グループは(株)音力発電が開発した「発電床®」の技術を、世界で初めてスポーツ

(運動)分野に応用。その第一弾として、人工芝の下に「発電床®」を入れてその上で運動を行い、それによって起きる振動で発電することを実証しました。他の運動系発電技術と比較すると、地上での運動の種類や方法に制約を受けないところに最大の特長があります。地上で行う屋内外のあらゆるスポーツに発電可能性があるため、将来的にはスポーツ施設の電力の一部を利用者自身の自由なスポーツ活動でまかなうというビジョンを構想しています。エコプロダクツの主催者側からも注目ブースとして紹介されたこともあり、本学のブースには3日間で300人を超える来場がありました。

この様子はTBSをはじめBS放送、NetRushTV(<http://www.netrush.jp/>)、ラジオ2局でも紹介されました。

## ベガルタ仙台のコーチが本学で低酸素トレーニング



ベガルタ仙台は、エチオピアで植林活動を行っているNPO法人「フー太郎の森基金」(福島県相馬市)と共同で、来年1月にエチオピアにコーチ2名を8日間派遣し、現地の子ども達を対象としたサッカー教室を開催します。エチオピアが標高2400mの高地であることと、派遣コーチが両名とも本学OBであることから、本人達が

ら事前トレーニングの依頼が大学にあり、今回のトレーニングを実施したものです。コーチは、井上和徳さん(平成5年度体育学科卒、平成11年大学院修了)と福田直人さん(大学院平成17年度修了)で、内丸講師の指導下で行われました。

12月16日(木)には低酸素状態の中でエルゴメーターを用いたトレーニングを体験、21-23日には、標高2400mと同等の酸素濃度に設定された低酸素室で宿泊し、高地環境での滞在や運動することへの馴化を目的に行われました。

井上さんは「実際に低酸素状態での運動がどれほどきついのか体験できただけでも、この経験は大きいです。何の準備もなしに現地に赴いていたらコーチとして運動することはできなかったと思います。母校の仙台大学に低酸素の施設があったことと、それを利用させていただけた事に感謝します。」と、話していました。

## 東北多文化アカデミーの修了発表会



東北多文化アカデミーで日本語を3ヶ月間学んでいた留学生8名(平成23年4月入学予定)のプログラムが無事に終了しました。12月22日(水)にはプログラムの締めくくりとして1人約5分間の修了発表会が行われ、朴澤学長も出席するなか、留学生たちが日本語学力の修得成果を披露しました。留学生を担当している林臨時職員(学生支援室)は「留学生たちはしっかり頑張ってくれたようで、日本語学力が格段に伸び、素晴らしい発表でした。」と、多文化アカデミーでの学習の成果に感心していました。

## スポーツ栄養セミナーを開催



12月7日（火）にB300教室において運動栄養学科が毎年企画するスポーツ栄養セミナーが開催され、運動栄養学科の学生、約250名が参加しました。今年のセミナーではサプリメントの製

造・販売を行い、栄養面からプロスポーツチームのサポート活動も行なっている(株)ボディプラスインターナショナル(所在：仙台市宮城野区)から講師を招き、「スポーツサプリメントとその普及における活動」と題して講演していただきました。講師は、仙台89ERS (bjリーグ)のサポート活動を行っている和久 夕紀子さん(仙台大学平成15年度卒)と、管理栄養士の湯目 恵理さんで、それぞれの立場からサプリメントの効果や摂るべきタイミングの話しや、仙台89ERSに帯同して実際に行なっているサポート活動の紹介などについて話して頂きました。

学生たちはサプリメントについて大変興味を示し、講演後も多くの質問が飛び交う、たいへん有意義なセミナーとなりました。

## 楽天野球団・池田副社長の講義「スポーツとマスメディア」

～ プロスポーツの成り立ちとそのゆくえ～

12月10日（金）、F303において(株)楽天野球団取締役副社長である池田敦司氏を迎え「スポーツとマスメディア」というタイトルでの講義がなされ佐藤宏専務理事、マーティ・キーナート副学長をはじめとする学生・教職員35名が聴講しました。

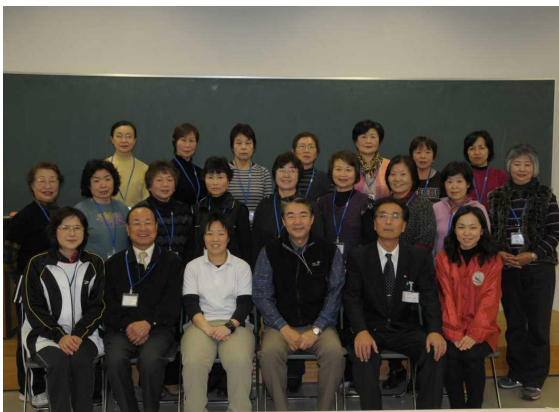
最初に佐藤宏専務理事より、池田氏の紹介を兼ね、楽天の歴史も含め今日は興味深いお話を期待しますとのご挨拶がありました。続いてご登壇した池田氏は、楽天が2005年にThe Baseball Entertainment Companyを理念に「強いチーム」「地域密着」「健全経営」をミッションに掲げた野球プロ集団であり、最低でも毎年プレイオフに出場できることを目指す上昇球団である旨、説明されました。プロ野球はかつて、最大の収益をあ

げることが最も大きな目的だったのに対し、今は良い試合を快適な環境で楽しく観戦することにより、リピーターを増やすことが大切だそうでプロスポーツがビジネスとして成り立っていく上では、緻密な戦略が欠かせないことを熱心にお話しくれました。

時間の関係上、星野新監督を迎えて来期にける意気込みに関してはまたの機会となりましたが、熱血監督のもと心機一転をはかる楽天チームの奮闘ぶりが、なお一層楽しみです。



## 生活習慣病予防教室閉講式



柴田町が主催で本学教員が講師を務めた「生活習慣病予防教室」の閉講式が12月9日(木)に行われ、橋本教授より受講生一人ひとりに修了証書が手渡されました。この教室は柴田町の行う特定検診等の結果に問題点が指摘された26名を対象とした教室で、7月から半年間に渡って行われました。月に一度、運動指導や健康講話、調理・食事指導を行い、生活習慣の改善を促してきました。また受講生に歩数計を貸し出して毎日の歩数や血圧を記録してもらい、その数値についての個人指導を実施しました。個人差はあるものの、参加者のデータは改善がみられ、教室は修了しました。

## 「リスペクト！おかげさまプロジェクト」が白石川河川敷でごみ拾い



12月2日（木）に「リスペクト！おかげさまプロジェクト」のファミリーとして活動する5名の学生が、白石川河川敷の清掃活動を行いました。「リスペクト！おかげさまプロジェクト」は、普段私たちが自由にスポーツを楽しめる環境を支えている人やモノに対して、常に敬意と感謝の心を持ち、「おかげさま」の気持ちを伝え合うことによって、その価値を確かめ、広めていこうという取り組みです。

仙台大学の他にもベガルタ仙台・宮城県サッカー協会・ベガルタ仙台ホームタウン協議会が加わって様々な推進活動を行なっています。

今回は、普段お世話になっている船岡の街に感謝の気持ちを伝えようと、学生自身で河川敷のごみ拾いを企画し、実行しました。白石川の河川敷は、漕艇部の練習場となっている他、春は花見、夏はバーベキューや花火、秋には芋煮会など年間を通してお世話になっている場所です。とくに、川沿いにゴミが多く、洗剤のボトルや納豆のパック、肥料の袋など思いがけないゴミの数々に、活動した学生からは驚きの声が上がりました。2時間半で柴田町指定のゴミ袋（大）約8袋分のゴミが集まりました。限られた時間でしたが、活動した学生の表情からは達成感を感じ取ることができました。

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」ブログ  
<http://respectokagesama.blogspot.com/>

## 高橋絢子さん（運動栄養学科）に宮城県警より感謝状



宮城県警察本部生活安全企画課が、振り込み詐欺被害を防ごうと、詐欺グループの電話の手口を再現した音声ドラマ3作（息子を名乗る手口編、警察官を名乗る手口編、架空請求詐欺編）を制作しました。この音声ドラマに声の吹き込みという形で協力した高橋絢子さん（運動栄養学科3年）に対して、宮城県警より12月6日に感謝状が贈られました。高橋さんが今回の制作に携わるきっかけになったのは、宮城県内のボランティア学生で組織され、本学でも8名が登録している「みやぎマモルンジャー」に制作協力の依頼があったもので、高橋さんは副代表を務め

ていることもあり、率先して手を挙げたそうです。

高橋絢子さんは騙され役として出演しています。この音声ドラマは下記の宮城県警ホームページでも聞くことができる他、県警が主催する防犯講話などで活用される予定となっております。

宮城県警察ホームページ  
<http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/seian/gaitohanzei/hurikomesagi/dorama/onsei.html>

### 高橋絢子さん（運動栄養学科3年）



学生で組織する「みやぎマモルンジャー」の活動は、防犯パトロールや振り込み詐欺被害防止の呼び掛けなどです。将来、警察官を志望しているため、防犯に携わることができるこのボランティアに強い興味が湧き、活動に参加しています。今回参加した音声ドラマでは、騙される役を演じたのですが、振り込み詐欺の手口の巧妙さに驚かされました。制作した音声ドラマによって、注意喚起が促され、振り込み詐欺被害の抑止になることを望んでいます。

## 学生支援センター主催クリスマスパーティー



12月21日(火)に学生食堂において学生支援センター主催のクリスマスパーティーが行われ、教職員・学生あわせて約70名が参加しました。このイベントは、ボランティア学生の慰労と反省会、留学生との交流を目的として開催されています。会では、ノートテイクボランティアチームによる手話当てゲームや、留学生による歌や大道芸などのパフォーマンスなども披露されるなど、笑顔の絶えない交流が深まるパーティーとなりました。

## 札幌近郊同窓会



12月4日(土)にホテルポールスター札幌を会場にして札幌近郊同窓会が開催されました。同窓生約50名が集まり、総会では支部名をこれまでの札幌支部から北海道道央支部への変更することが審議・承認されました。本学からも穴戸教授、鈴木(清)教授、佐々木事務局長、渡辺入試担当課長、三浦職員が出席し、大学の近況報告や同窓生教員推薦入試等の説明等を行い、今後益々の協力・支援を要請しました。その後に行われた懇親会でも情報交換などして交流を深めることができました。

## 仙台大学学生食堂の愛称 & ロゴマーク大募集 <主管: 運動栄養学科、学生部>

～食を学ぶ場、癒しの空間～

仙台大学では、将来、体育・スポーツを基盤とする諸分野において、専門的な知識と技能を体得した専門家を目指して多くの学生が学んでいます。

ところで、学生食堂は、毎日の食事を通じ、実際に生きた教材を用いて「食を学ぶ場」で、仙台大学自己管理(健康・体力・栄養)システムの一環として自分自身の食事管理が出来る環境も整っています。一方、学生食堂は、学生や教職員にとって交流の場として「癒しの空間」という役割もあります。このように「食の学びの場」、そして「癒しの空間」である学生食堂に愛称をつけることにより、更なる学食としての役割の向上が期待できるでしょう。

そこで、「食を学ぶ場、癒しの空間」をポリシーとした学生食堂の愛称とそのロゴを仙台大学学生及び教職員から広く募集致します。奮ってご応募下さい。

### 応募要項

応募対象: 仙台大学学生・教職員

応募期間: 平成22年12月1日(水)～  
平成23年1月31日(月)

応募方法: 学生食堂の愛称・ロゴマークを所定の応募用紙に記入し、応募用ボックスに投函して下さい。

応募用紙・応募ボックスは、学生食堂及び学生課前にあります。

副賞: [学生] 平成23年度海外短期集中プログラム無料招待

[教職員] 賞金一万円

備考: 採用された愛称・ロゴマークは学食の出入口に掲示します。



## 西多賀支援学校からの 御礼状



西多賀支援学校において、本学のOGでもある西多賀支援学校体育科の富樫(旧姓：安田)玲子先生(仙台大卒・大学院1期生)から恩師である健康福祉学科長の小池先生へ相談があったことが契機になり、小学校から高等部まで30人ほどの「スポーツ交流」に仙台大学から授業のお手伝いに伺いました。これまで支援学校では小学校は小学校と、中学校・高等部もそれぞれの年代ごとの体育の授業はあったものの、全体で「スポーツ交流」の授業を実施することは初の試みだったそうです。

西多賀支援学校は、病弱児・生徒が病気を治療しながら通う支援学校です。今回は小池学科長、関矢先生と当日授業が重なっていない学生のコアクトメンバー7人が派遣されました。支援学校先生方の指導の下、体育館で安全面と衛生面に配慮しながら「フロート」とよばれるサイコロ型バルーンを使って4チームに分かれゲームを実施。時間内に手元にフロートが残ったチームに自己紹介をしてもらったそうです。日頃顔をあわせることのない小学生から高校生まで、お互いを知る場となって楽しい交流ができ、子どもたちも楽しく活動できたそうです。

また、病室から出ることができず参加できない

子ども達へも、西多賀支援学校で普段コミュニケーション手段として利用している「スカイプ」で互いに様子を知らせたり、だれもが楽しめる授業を展開していることに驚き勉強になったそうです。なにより支援学校の先生方があたたかく元気に盛り上げてくださったそうで、そのパワーがただただすごいと思った。と話してくれました。

さまざまなハンディキャップを持たれている方へ、「スポーツを通じ楽しくコミュニケーション」を実践しているコアクトのメンバーたちです。今後のますますの活躍が期待されます。

### 横山宗平さん(健康福祉学科3年)



僕たちをおもいうかべながら、一生懸命に御礼状を書いたり作ってくれたことをおもうと感激です。この企画のお話を伺ってから大学の先輩でもある富樫先生と何度も事前打ち合わせをさせていただきました。当日子どもたちと実際に接してみると、新たな発見もあり、もっとできたかもしれないと、子どもたちの可能性を感じました。西多賀支援学校の先生方には、とても貴重な経験をさせていただき感謝しています。



## 仙台大学オリジナルグッズ新商品紹介 / ピンバッジ



仙台大学オリジナルグッズとして、ピンバッジ(直径2.6cm / 400円)が新しく追加されました。駐輪場の横にあるタカトモスポーツ(冬休み中は学生支援室)で購入する事ができます。

仙台大学オリジナルグッズプロジェクトチーム(P/T)では学内の承認のもとでグッズを製作しております。今後もより良いグッズを製作しますので、皆さまのご提案がございましたらP/Tメンバーにお声掛けください。

## 男子バレーボール部が全日本選手権(天皇杯)ファイナルラウンド初出場 価値ある勝利



12月16 - 23日にバレーボール日本一のチームを決する「天皇杯・皇后杯 全日本選手権大会ファイナルラウンド」が国立代々木競技場体育館(東京都)で開催され、宮城県予選、東北ブロック大会を勝ち抜いた男子バレーボール部が初出場しました。この大会の予選には、全国で531チームが出場しており、その中でファイナルラウンドに出場できるのはブロック大会を勝ち上がった僅か16チームと、プレミアリーグ8チームを含めた全24チームだけです。ファイナルラウンドに出場するまでも困難な大会であり、ここで戦える事はたいへん名誉あることです。

本学は1回戦で国際武道大学(関東大学リーグ1部)と対戦し、フルセットの末、勝利しました。全国でも国際武道大学がいる関東大学1部リーグ

は非常にレベルが高く、11月のインカレではベスト8に6校が入っており、インカレでは本学も明治大学に敗戦を喫しています。バレーボール部が目標にしている「インカレでベスト8」を達成するためには、関東1部リーグ勢から勝利することが課せられるため、今回の勝利は目標達成に向けて、たいへん価値ある勝利となりました。

続く2回戦では昨年の同大会を制しているパナソニック(プレミアリーグ)と対戦。ストレート負けしたものの、3セット中2セットで20得点をあげるなど、監督・選手ともに、「全国レベルで十分に戦える」との自信を深めた大会となりました。

本学男子バレーボール部のベンチ入りメンバーには雄物川高校(秋田県)出身の学生が4名おります。大会前に、庶務課の川村課長を通じて全日本キャプテンの宇佐美大輔選手(パナソニック/雄物川高校出身)より雄物川高校出身の学生に向けて、「後輩と試合ができることを楽しみにしています。1回戦を突破して是非、2回戦で対戦しよう。」とのコメントを頂戴しました。この言葉で選手のモチベーションも上がったようです。偉大な先輩との対戦を経て、今後の精進に磨きがかかることでしょう。

## 全日本体操競技団体・種目別選手権で菊池收祐さんが跳馬で3位

12月3 - 5日に山口県スポーツセンターで行われた全日本体操競技団体種目別選手権大会において、菊池收祐さん(体育学科1年)が種目別：跳馬で3位入賞を果たしました。高校では日本人では菊池さんにしかできないIF何度の大技「タマヨ」を武器に、ゆかと跳馬のスペシャリストとして注目されてきた菊池さんですが、大学入学後は今回が初の表彰台です。

菊池收祐・・・

北海道旭川出身。関西高 仙台大  
2009全日本体操競技選手権種目別選手権ゆか2位、跳馬5位。  
2010モントリオール国際大会種目別ゆか優勝、跳馬2位。

菊池收祐さん(体育学科1年)



植松鉦治選手(コナミスポーツ/平成20年度卒)の演技に憧れ、植松選手が育った大学で競技に打ち込みたいと思い、仙台大学に進学しました。足に自信があるため、跳馬とゆかは得意ですが、足を使わない4種目(あん馬、鉄棒、つり輪、平行棒)については

苦手です。今後、この4種目を強化し、仙台大学を上位に導く選手、世界で戦える選手を目指したいです。

## OBの大元英照選手がアジア大会での優勝報告のため来学



12月3日(金)に、過日行われた「アジア大会  
(広州)・軽量級男子舵手なしフォア」で金メ  
おおもとひで き

ダルを獲得した大元英照選手(アイリスオーヤマ所属/仙台大学H.18年度卒)が、阿部肇講師(仙台大学漕艇部監督 兼 アイリスオーヤマボート部コーチ)と共に、朴澤学長の元を訪れ、アジア大会優勝の報告を行いました。

朴澤学長は「前大会の軽量級男子ダブルスカルに続いて、アジア大会2大会連続優勝おめでとうございます。ロンドンオリンピック出場に向けて今後の活躍にも期待しています。」と述べ、大元選手は「アジアでは中国が飛び抜けて実力が高く、今大会でも男女あわせて14種目中10種目で中国が優勝しました。私が出場した男子舵手なしフォア種目に中国チームは出場せず、“中国チームを破って優勝する”という目標は叶いませんでした。しかし、2年後のロンドンオリンピックに向けて、今のチームで優勝できたのは大きな自信となりました。」と話していました。

なお表敬の様子は、ミヤギテレビ、河北新報、朝日新聞、読売新聞で紹介されました。

### 大元英照選手(アイリスオーヤマ株)/平成18年度卒)

2年後のロンドンオリンピックに出場するためには、2011年8月にスロベニアで開催される世界選手権で11位内に入り、日本の出場枠を勝ち取らなければなりません。これが現時点での最大の目標です。

オリンピック3大会に出場して



いる阿部コーチの存在は大きく、仙台大学に進学を決めた理由でもありました。今の自分があるのも阿部コーチのお蔭で、強みとしているリズムの刻み方も、阿部監督の背中を見ながら漕いで学んだところが大きいです。

普段は仙台大学の後輩たちと練習をしているので、漕ぐ技術や練習に取り組む姿勢などについて、見本とされる先輩でありたいと思っています。

### 阿部肇氏(仙台大学漕艇部監督、アイリスオーヤマ漕艇部コーチ)

大元選手は技術・体力面で素晴らしい素質を持っており、チームの漕ぐリズムと出力のタイミングをコントロールするストローク(整調)という大変重要な役割を担っています。

さらに彼が凄いのは、限界のリミッターを自ら外せることです。普通は、全力を出し切ったと思っていても、辛くなると脳が静止するように指示するため、大抵の場合は余力を残しているものです。

しかし、彼はそのリミッターを外し、ゴールしたときには自分の持っている全てを出し切ってしまうこともあります。その時、ゴール後は意識が朦朧とし、一步も動けない状態に陥ってしまい、病院に搬送されたことも数回あります。おそらく、トップアスリートとはそういうことができるからトップでいられるのだと思います。

今大会で優勝した、舵手なしフォアのメンバーは素晴らしいチームワークで互いに刺激しあい、個人の能力を高めあっています。必ずオリンピックの出場権を日本にもたらしてくれると信じています。



### 大元英照選手・・・

宮城県塩釜市出身。塩釜高校 仙台大学 アイリスオーヤマ株。大学1年からU-23日本代表。アイリスオーヤマ株入社後からナショナルチームシニアエリートメンバー。

2006アジア大会(カタール・ドーハ)・軽量級男子ダブルスカル優勝。2010アジア大会(中国・広州)・軽量級男子舵手なしフォア優勝。